



福祉

中川幸廣 議員（白和）

特定妊婦への対応は

答弁…養育が適切に行われるよう支援している

問 貧困やDV、予期せぬ妊娠、若年妊娠など複雑な事情を抱えていて、出産の前から支援が特に必要とされる特定妊婦。市としての判断基準や少子化と言われる昨今、生命の大事さをどのように考え支援や対応するのか伺う。

答 妊婦との面談の結果、出産や養育等に支援が必要と判断した際には、検討会議において、リスクの判定や今後の支援の検討を行っている。その後、関係機関で情報共有し、サービスの利用を具体的に相談・調整し、養育が適切に行われるよう支援している。



特定妊婦(写真はイメージ)

福祉 ビジネスケアラーの対応は

答弁…相談窓口の周知や機能強化に努める

問 ヤングケアラーは常に介護に関する言葉として耳にするが、ビジネスケアラーは余り聞かない。内容はビジネスマンが家族の介護のため退社する状況を言う。労働人口が減少する中、国としても大きな問題である。市としての支援や対応をどのようにするのか伺う。

答 仕事と介護の両立のためには、なるべく早く相談してもらい、速やかな介護保険の利用につなげることが重要である。地域包括支援センターの更なる周知及び機能強化に努めるとともに、広く相談を受ける福祉の総合相談窓口の開設など、体制の整備に努める。

議会広報研修会

12月8日(金)

～傍聴よりわかりやすい議会だよりに～

市議会では、定例会ごとに発行している「議会だよりしらおか」の魅力アップを目指し、議会広報研修会を開催した。

この研修会は、25年にわたる議会だよりの編集経験を有し、町村議会広報コンクール入賞・受賞自治体への編集サポート、アドバイスを行っている例会議録センター編集部長・議会広報アドバイザーの矢嶋洋美氏^{やしまひろみ}を講師として招き、「議会だより原稿の基本と一般質問ステップアップ」をテーマに開催した。

当日は、市議会議員18名全員と議会事務局職員が原稿を作成する際の基本や注意点、読者を引き込む写真とキャプションのポイントなどを、講義と実習で学ぶことができた。

今後、市議会は、この研修会で学んだことを生かし、市民の皆様にも市議会の活動をわかりやすく伝え、より多くの皆様に手に取って読んでもらえる魅力的な「議会だより」づくりを進めていく。

